

冬花の再生方法について

～シクラメン・シャコバサボテン・ポインセチア～

石川花の会 土屋 照二

前年の秋から冬に楽しんだ花があると思います。今はどうなっているでしょうか。もともと秋から冬に咲く花ですから夏に枯らしたり、どのように管理したらきちんと花が咲いてくれるのか大変気になることです。今回はそんな花から代表的な種類を取り上げます。

◆シクラメン

花をきちんと育てるには、その花の習性を知ることが大切で、そのことにより管理のポイントを掴むことができる

【習性】

- ①タネまきして本葉6枚になって以後、葉1枚にツボミ1つができて1～2か月後に開花
- ②高温（28℃以上）で小さなツボミが枯れる
- ③秋以後に出たツボミが暮れに咲く
- ④冷涼性なため暑さには弱く、特に2年生以上の株では夏越しが問題となる

【夏越しの2方法】

- ①水やりをやめて強制的に地上部を枯らして、雨の当たらない所に置く
- ②家の北側や東側の雨の当たらない場所で水、肥料をやりながら管理

*いずれの方法でも9月中旬に植え替えする

*①では古土を全部除き、②では全部または1/2～3を除き新しい用土で植える

*用土は中粒赤玉土に腐葉土を30%程度混ぜたものを基準にする

*一般的に開花は市販のものより遅く、花も小さくなる

【冬の管理】

*寒さには強いので基本的にはできるだけ温度の低い場所に置く

*温度の高い場合では消耗が激しいので、できる限り日に当てて栄養を作らせる

*高温下での光不足による徒長、乾燥による萎れでの株の乱れは回復しない

*成育しながらツボミを出して開花し続けるので肥料を与える

*底面給水鉢では時々上部から水をやり、上部にたまった肥料分を下に流す

◆シャコバサボテン

挿し木の時期は過ぎているので、今ある鉢植えの管理について説明する

【習性】

①ツボミは最低気温15℃、または日の長さが短くなるとできる（9月下旬）

②ツボミができるには先端の茎節が充実していることが必要

【ツボミ着生管理】

*8月下旬から水やりを控え、肥料やりをやめる

*高温期に日当たりを制限している場合は、日に当てるようにする

*先端の茎節の除去…先端に充実した茎葉を位置づけ、ついでに形づくりする

【開花までの管理】

*ツボミは環境（特に温度）変化に敏感でツボミ落ちを起こす

*0.5～1 cm大のツボミが特に感受性が高い

*ツボミが2, 3 cmの大きさになればツボミ落ちを起こさなくなる

*以後は暖かい室内に入れて開花を早めることができる

*冬は凍らない場所で、水やりを控えて管理する

*乾燥しすぎて茎節が萎びすぎると春からの成育が劣るので注意

◆ポインセチア

この植物も挿し木の時期は過ぎているので手持ちの鉢植えの管理について説明する

【習性】

①着色部分は苞という花の付属物 したがって先ず花の着くことが必要

花は日が短くなる（実際は長い連続した暗期）ことが必要

②苞の発育と着色にはある程度高温（15℃以上）が必要

当地での自然条件では苞の発育は11月以降になり温度不足

③苞の発育時期に肥料が効いていることが必要

一般に花では開花期近くになると肥料を控える

【立派な苞にする管理】

*8月中旬まで肥料を十分やり株を育てる

*8月15日ころ枝数を2, 3本に整理して、それぞれ下から2, 3節まで切り戻す

*直後から夕方5時から翌朝9時くらいまで株を暗黒に置く

夜の途中で光が当たる（30分程度）と開花の効果が打ち消される

*この操作は自然の日の長さが開花に適当になる9月末まで続ける

10月下旬から色着くので温度は十分保たれている」

*苞の発育と着色が十分になるまで肥料やりを続ける…液肥が便利

【観賞株の管理】

*光不足と低温（10℃以下）で緑葉が黄ばみ落ちるので、暖かい場所で日に当てる

◆その他

【カラコエ】

*日が短い条件でツボミができて開花する

*冬に温室ものが出回るが、家庭では温度が足りず春咲きになることが多い

8月下旬から9月初旬に茎先端7 cmほど採り12 cm鉢以下に1～3本挿し木すれば、10月上旬にはツボミができて草丈を小さく仕立てられる

【観葉植物の小型化】

観葉植物植物は夏の間大きく育ち、冬に向けて室内に取り込みにくくなっている場合がある。そんなときは9月上旬までなら発根後も温度が高いので、思い切って挿し木をして小型化をすると良い。小型化すれば室内に持ち込みやすい。他の非耐寒性植物にも適用できる。